慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	史上より観たる世界主義（下）
Sub Title	
Author	占部, 百太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1917
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.5 (1917. 5) ,p.638(58)- 655(75)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170501-0058

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

史上より觀たる世界主義（下）

占部百太郎

中

國民主義が勃興して來たので、漸く頭角を現はさむとした世界的運動は爲に成功の機會を得なかつた。此世界的運動の起原は、一八六四年英國の勞働者と佛國の勞働者とが協同して倫敦に於て發起した萬國勞働者協會 l'Internationale と呼ばれた有名なる會合に在ると云ふことが出來る。一八六二年の倫敦博覽會開催に際して、佛國から訪問したる勞働者と英國の勞働者との會合から由來したる此協會は、忽ちにして有ゆる國々に其支部を設けた。而して其大會では、毎時最も進歩したる種類に屬する革命的社會主義が勝を制した。一八六九年バクニンと露國及び波蘭の虚無主義者が此協會に加入するに至て、無政府主義の一派が優勢になつて來た。一八七一年の巴里コンミューンの暴動に對して此協會が與へた影響に至つては、疑ふ者が多いけれど、余は其理由を以て不充分と考ゆる。アノトーは當時巴里に於ける l'Internationale の會員數を七萬乃至八萬人なりと計算し、爾してビスマークが佛國共産主義者の無政府的傳道を煽動したやうに信じて居る。此說は牽强附會に見ゆるけれど、然しビスマークは其敵國を删弱ならしむる術策にかけては巧手であつた。彼は一八七一年一月廿七日ジーュル・ファヴルとの會見中、將さに獨逸軍の手に落ちむとする其巴里の輿論の危險なる狀態に言及して、下のやうな陰險なる忠告を與へた。曰く「貴國に未だ鎭壓する軍隊の存する中、暴徒を挑發しては如何です」と。此の如く殘酷なる忠告に接したるファヴルは恐怖の眼を以てビスマークを見上げたのである。去り乍ら明かにビスマークはファヴルよりも巴里の事態に通じて居たので、後者は其後多分前者の狡猾なる意見を納れなかつたことを後悔したであらう。

一八七一年の春リオンを始め、中佛南佛の諸都市が巴里を學で、國防政府の顚覆を企てゝ佛國を極度に零落せしむるに至て、萬國勞働者協會の運動は獨逸の思ふ壺に嵌つたのである。協會員等は國民的政府に代ゆるに、各自治團 Commune を政府の單位とし、其間に一致協同を遂ぐ可き聯邦制度を以てせむとした。是等の共産主義者が母國の未だ獨軍の足下に苦悶しつゝあるに方つて、斷然政權を掌握しやうと企てた事が、既に其運動の特性を發揮して居る。こは即ち萬國勞働者協會中の熱狂なる少數者に、國家の主張が全然無視せられて居たことを證明して居る。否、彼等は母國の苦痛が大なれば大なるだけ、舊世界の思考を一掃して、社會に共産主義的、非國家的形式を與ふるに好都合なりと考へたことを證明して居るのである。勿論、結局は國民的意見が勝を制したけれど、其れも佛國をして殆ど瓦解の淵に沈ましむる程の激烈なる內亂を經た後の事であつた。巴里に於ける放火隊の暴行やら、政治狂の他の徵證やらが、此協會の主張を不信用ならしめ、かくて一八七二年になつて、萬國勞働者協會は二派に分裂したのである。カール・マルクスの率ひて居た穩和派は、多數を以てバクニン配下の無賴派を制した。然し後者は佛國の職工、否其れよりも一層西班牙及び伊太利の職工中に多數の味方を有つて居る。自家の暴行の爲信用を失したる虚無主義者は漸次其數を減じた。所が露西亞の同主義者は農奴解放を斷行したるアレクサンドル二世の暗殺を遂げたので、露國は復も反動派の天下になつて了つたのである。

以上の事實の重要なる點は、世界主義の主張

者等の無分別なること、及び最も慘憺たる戰爭の後尙且國家の要求を全然藐視したことである。然し無政府主義なる非國民主義なる理論が獨逸人の間に於けるよりも、スラブ民族及びラティン民族の間に遙か大なる根據を占めて居ることを看取するは、極めて重大である。獨逸の社會主義で優勢なるカール・マルクス黨は、其意見に於ては進歩して居るけれど、無政府黨ではなかつた。恰度普佛戰爭の勃發前一八七〇年七月二十日の事、マルクスは他の社會主義者エングルスに書を與へて、佛國人が散々に敗北することを希望する、左すれば Internationale の中心は獨逸に移るであらうと云つて居る。マルクスは又佛蘭西共和國に對しても、ナポレオン三世の帝政に劣らぬ程敵意を抱いて居た。之に反してバクニンは獨逸人と戰へる若き佛蘭西民衆政治を援助す可く全力を盡したのである。かくて獨逸の社會主義者は國民主義に傾き、佛國及び露國の社會主義者は世界主義に向ふたのである。而して屢〻ラティン民族スラヴ民族の間に恐怖を與へつゝある一部少數派は、曾だ其等諸國政府の敵たるのみならず、有ゆる政府の公然たる敵である。

チュートン民族とラティン及びスラヴ民族との間に此の如き相違を來したのには、其處に氣質並びに見解の根本的相違がなくてはならぬ。ラティン民族及びスラヴ民族はチュートン民族に比して、理想の念が確に強く、又共同の法律共同の文明と云ふ考も其根本が深い。であるから有ゆる重大なる問題に際して、社會の權威が勝を占める——是れは古代羅馬がラティン民族に豐かに與へた遺產である。スラヴ民族にも之と同一の概念があり、而かも一層強い感情の發動を見るのが此人種の特色である。夫れで個人に對する社會の主權とか、もつと廣く人類の主權とか云ふ如き、其影響の大なる改革を目的とする運動となると、何處よりも是等兩人種の間に成功の機會が多いのである。實際上其影響の大なる社會上の革命は概して是等の人種の間に起因したのである。之に反して、獨逸人やアングロ・サクソンやスキャンティネヴィア人やは、家庭と個人の自由を貴ぶので有名である。ルーテルとクロンウェルが是等の人種の特色を代表し、ルッソウとマッチニがラティン民族の特色を代表して居る。故に世界主義が先づラティン民族の間に發展し、而してチュートン民族の個人主義に依て阻害せらる可く見ゆるのである。

所が、一八七一年に於ける世界主義の運動は、主として其黨員の過度なる熱心に依て失敗したのである。ブラウニング夫人は當代の佛國人が兎角極端に走る傾向あることを歌て居る。

"These too fiery and impatient souls,
They threaten conflagration to the world,
And rush with most unscrupulous logic on
Impossible practice."

一八七一年の春に於けるが如く、此缺點の甚しく暴露せられたことはない。第三佛國共和政治が一時反動派の爲、勝を制せられたのは、畢竟共產主義者の罪である。之に反して獨逸に於ては無政府黨の運動は形勢重大なること絕へてなかつた。而して獨逸社會黨の多數の不平と云ふのも、結局は、現皇帝の獨裁的行動によつて自から刺戟せられた不平以上のものではないのである。マルクス派の社會黨員でさへ獨逸では漸次減少するのであるが、眞實獨逸の社會黨と云ふのは往々にして個人の自由の主張者たるに過ぎないのである。ウィリアム二世は其治世の最初の七八年の間、國家社會主義と稱せられたる政策を用ひて、社會黨を慰撫せむと企てた。然し一八九五年前後に於て、彼は其國家社會主義の緩和策が一向に認められなかつたことを發見したので、一八九六年には遂々世界政策に乘

出したのである。

獨逸の此商業的帝國主義は急激に成功したのであるが、殊に現著なるは、其が極めて多數の獨逸社會黨員を味方に引込むだことである。是等社會主義者變説の理由は今に於て明白でないけれど、然も一つの理由、恐らく根本的の理由は、エミル・ロエルと呼ぶ白耳義人に依て指摘せられた。ツルネーから選出せられた社會黨の代議士たる彼はかう云ふことを述べて居る。マルクスの社會主義は殆ど全く社會問題の自然的方面にばかり傾倒したので、從て一八四八年の社會主義者を刺戟したる今一層廣汎なる人道的問題を閑却したのである云々。此説明は以上の疑問を一層進むで解釋するものであると云ふのは、一八八八年以來獨逸政府は勞働者の爲に多く盡瘁する所あり、而して輓近彼等に向つて殖民地並びに良好なる港灣の必要を唱道せむと試みたからである。主として麵麭と魚肉とを欲求する勞働者に取て、獨帝の此政策は抵抗す可らざる吸引力を示したのである。例へば獨帝の保護する汎獨逸主義の綱領は、大獨逸の中に白耳義及び和蘭の包括を目的として居るが、之を行ふ前に方つて中歐關稅同盟を組織するであらう。而して此綱領は甚くバヴァリア人の中に帝國主義的及び排外的思想の成長を促進した。以前の分立主義から脫却して、バヴァリア人は熱心に此綱領を遵奉した。何となれば、バヴァリア王が近頃宣言したやうに、之に依て南獨の貿易はロッテルダムやアントワープと云ふ自然の港を與へらるゝからである。之と均しく商業の大都市に於ても、極めて多數の社會主義者は帝國の膨脹政策に贊成して居るのである。

獨逸社會黨の行動は世界主義に取て甚い打擊であつた。社會主義の最初の主唱者の多くは、諸國民間の自由貿易を以て、友誼的交通を增進し從つて戰爭の機會を減ずる方法なりと信じたのである。然るにビスマークの獨逸工業保護政策は（農業に關するビューローの政策に依て補はれて）遙に通商及び農業の範圍を越へて、極めて重要なる結果を齎らしたのである。と云ふのは、當時獨逸の前途には、二個の政策が在つたからである――即ち平和的交通を含める自由貿易の途を繼續す可きか、或は保護的で狹隘なる國民主義的政策を採る可きか、此の二つであつた。所がビスマークは後者を擇むだ。而してウィルヘルムは其目的が獨逸國民をして出來得る限り自給自足的團體たらしむるに在つたので、ビスマークの政策を一層助長した。其結果、獨逸は平和の四十年の間に、國外に溢れ出でむとする程、工業的生産の莫大なる貯藏を見た。國家の保護を基礎として、尨大なる工業會社が創立せられたのであるが、是等の會社は他の國家が獨逸の商品をば低廉なる關稅で輸入することを許可するに非れば、他に適當なる市場とて發見し得なかつた。而かも此の如きは、他の國家が充分には承引せぬ所であつた。此に於てか國民主義的或は保護的制度は行き詰つて了つたのである。新しい貿易關係者等は囂々として新市場を要求し、是等に關聯する職工も獨逸帝國膨脹論者となるに至つた。此の如くして一八八〇年に採用せられた保護制度は、益〻他國の併合を要求する聲を强くせしめたのである。

實際上、獨逸の此全體の制度は凡そ下のやうに不正結託を誘起したのである。第一、殖民黨は殖民地と及び政府の保護を要求した。次ぎに殖民地なるものは大海軍を必要とすると説明せられたのであるが、更らに一方に於て政府の保護は兩後の筍の如く工業會社を簇生せしめ、是等の會社は製艦の費用を補助した。かく殆ど破裂せむまでに膨脹したる工業は新なる港を要求したのであるが、多くの社會主義者を含むたる社會の有ゆる階級は、此要求を支持するを必要

なりと信じた。即ち此要求を滿足せしめむが爲、陸海軍は擴張せられたのである。若し獨逸が全世界を開放されたる市場たらしむる自由貿易制度を保持したらむには、今次の大變亂は恐らく避けられたであらう、と云ふのは、普魯士のユンケルは何れにしても嚴々と戰爭を叫ぶにせよ、其叫聲は獨逸の商業社會には何等の反響を起さゞる可く、況や職工の間には何等の手答だも發見せられぬからである。私は繰返して云ふ、獨逸の勞働社會は、國內の大爆發か、然らずむば歐洲戰爭を造りたる狹隘なる商業主義の爲に、甚だしく彼等の世界的理想の徑路から逸脫したのである。我が大不列顚島では、通商を以て平和の羈絆であると考へて居る。所が獨逸では其れが遙に異つた作用を爲し、第十七世紀と十八世紀とに於て、幾多戰爭の最も重要なる原因であつた古い重金制度の形態に於て見はるゝのである。眞個獨逸に於ける過大の投機と過大の生產とが、恐らく一九一四年七月の大暴斷を斷せしめた。アントワープ、サロニカ、コンスタンチノープル、バグダット此の四ケ所が、餘り重荷なる工業制度に對する安全瓣に充てられむとした。白耳義と佛國の東北部、波蘭、クルランド及び巴爾幹諸邦の征服は、協商諸國及びセルヴィアに於ける混亂と弱點に徵して、些かも困難なる事業とは見へなかつた。左ればこそ商業は軍國主義と提携し、而して獨逸の社會黨は此の怪しき提携に對して豫期されたる程、呪咀の聲を浴びせなかつたのである。

固より英國に於ても、時には帝國主義が威勢を逞うしたことはあるけれど、全體に於ては適當なる海軍を備へて英帝國を防護するのを目的としたのであるから、其軍艦の增加の如きも、商船の增加や英殖民地に對する責任の加重と、辛うじて步調を保つの狀態であつたのである。其れで英國海軍の任務は勢ひ防禦的であつたが、其海岸線の短い獨逸海軍の任務は、殊に近年の海軍大擴張後優に攻擊的に出づることが出來た。眞實時局の危險は世界第一の陸軍國が、海上の優勢を以て生存の第一義とする强國と海洋上に抗爭せむと熱望したる事實に存して居た。獨逸と大英國との境遇上の此相違は、獨逸國人によつて決して承認せられなかつたのである。而して近年になつて獨逸の社會黨員は軍備擴張に反對して有效なる抗議を唱道することを停止したのみならず、伯林政府が頑として海牙平和會議に於ける軍備制限の提議ある每に之を拒絕したるにも拘はらず、彼等は何時も平氣で之を看過したのである。

近代の世界に於ける最大の危機に際して、獨逸の社會黨の不活潑に鑑み、其代表者等が萬國勞働者協會の數次の大會に參加して通過せしめた決議事項を瞥見するは、興味ある事である。一九〇一年巴里の大會では、總ての國の社會黨議員をして軍艦の建造並びに殖民地戰爭の決議に反對せしむ可く約定した。一九〇七年スタットガルトの大會で、有爲なる佛國新聞記者グスターフ・ヘルヴェは非社會主義的であるとして、愛國心に對して熱心なる攻擊を加へた演說をした。獨逸社會黨の領袖ベエベルは、母國なるものは支配者階級に屬するよりは寧ろ貧民の所有であるとの理由からして、此演說に反對し、且獨逸參謀本部をして「究極の敵」（佛國）に反對して活動せしめぬやうにとヘルヴェに警告した。ベエベル自身は戰爭に贊成しなかつたけれど、然し防禦的準備には贊同した。ヘルヴェは之に答へて、佛國に於ける彼の非戰主義の運動は、動員の場合に內亂と混沌とに遭遇す可きが故、佛國政府を緊束する力があると云つた。ベエベルは尙獨逸陸軍には三百萬人の社會黨員が在るけれど、彼等は戰爭の場合に於ける行動に就ては未だ何等の約束も與へて居ない、而かも其戰

爭は十年間の宣傳よりも一層社會黨の目的を助く可きであると宣言した。同大會は全會一致を以てヘルヴエの動議を可決した。

一九一〇年コペンハーゲンで開かれた萬國勞働者協會の大會では、ケーア・ハーディーの戰爭に際し勞働者の總同盟罷業に對する動議をば、五十一對百三十一票の多數で否決した。多數側には獨逸の二〇票墺地利の一八票伊太利の一五票北米合衆國の一四票其他があり、少數側には大英國の二〇票、佛蘭西の一二票露西亞の七票波蘭の五票其他があつた。一九一二年十一月のバーセル大會に會合したる社會黨の代表者等は、獨逸帝國議會總選擧に於て社會黨の大勝利を獲たるを喝采した。當時勃發したる第一回巴爾幹戰爭に言及して、佛國社會黨領袖ジョーレは、若し墺露兩强が此の戰爭に參加することありとも、獨逸、佛蘭西、英吉利の勞働者が何等の援助を兩强に與へざらむやうにと警告した。獨逸の代表者ハーゼは獨逸社會黨を代表して、戰爭を防遏せむが爲には有ゆる手段を用ひむとの約束を與へた。

軈て不吉なる事件が一つ持上つた。アルサス・ローレン問題を解決する希望からして、百八十人の佛國社會黨員は同數の獨逸側代表者との會見を期待しつゝベルンに赴いた。所が彼等は來會したる僅少の獨逸社會黨代表者を發見したのである。是れは獨逸代表者の一人が佛國側のヴェルネ君に語つたやうに、「上下を通じて有ゆる獨逸人はアルサス・ローレン問題はたゞ戰場に於て解決し直す可きものであると考へて居る、佛國人をして此問題に就き幻想を懷かしむるな」と、かう云ふ理由に基いたのであつた。獨逸の社會黨員は又一九一三年の終頃、獨逸の士官等が何の害もしないツァベルンの市民を虐待したる事件に對しても、之を保護せむ爲抗議を唱へなかつた。當時獨逸人は國を擧げて一八一三年の獨逸解放戰爭の百年紀念祭に熱中して居た。

而して獨逸には當年のやうに復た恐る可きナポレオンが居なかつたにも拘はらず、連りと戰爭熱が皷舞された際であつたから、新たに選出せられた百十人の社會黨議員も、同年の秋陸海軍擴張の爲提出せられた莫大なる國費の要求に對して殆ど反對の聲を揚げなかつたのである。而して此陸海軍費たるや、遙に防禦的性質の要求以上に超過したる巨額のものであつた。其後伯林政府は、縱令如何なる時局に臨むでも獨逸の社會黨は（ベエベルの有名なる言葉を用ゆれば）「祖國の爲斷末魔まで戰ふ」であらうと信ずるに至つた。勿論ベエベルは眞個の防禦戰に對してのみ此語を用ひたのである。一九一四年七八月に際し、ベエベルの黨派は獨逸政府が今回の戰慄す可き大戰爭を惹起したるにも拘はらず、尙其行動を諒とした。

今茲に當時重もなる國々に於ける勞働の狀態を回想すれば、一九一四年の春夏の交は佛國に於ても、英國に於ても、又露國に於ても、非常に勞働者不安の狀態に在つたのである。同盟罷業は頻々と起り、他の手段も行はれむとして居た。佛國內閣交迭の頻繁なる事及び其陸軍の準備未完成が公然承認せられたる事は、痛く公衆の信任を減じた。合衆王國では愛蘭に內亂が勃發せむかの如く見へた。露國では鐵道從業勞働者其他の數回の同盟罷業が由々しい形勢を呈した。獨逸がペトログラード及び巴里に其最後通牒を發したのは（七月卅一日）、協商側の諸强が社會的革命若くは內亂の淵に瀕したる最も形勢重大なる時であつたのである。墺國政府がセルヴィアに與へたる倨傲なる最後通牒に續ぐ獨逸の是等の行動ばかりを以てしても、充分に中央二帝國の禍心を闡明するに足るものがあるが、其れは獨逸が白耳義を通じて「其路を橫切」らむと求めたとき、日月の如く炳焉となつた次第である。

外交上の折衝の未だズット早い頃に際して、獨逸の社會主義者等が戰亂を惹起さぬやう抗議を唱へたと云ふことは一寸奇態である。七月廿八日獨逸の社會黨は單に戰爭防止の目的を以て、二十八ヶ所に會合を催したのであるが、其等の會合は却て警察に依て保護せられたのである。此の警察が保護を加へたと云ふ事實は、獨逸の官憲が未だ開戰の決心をしなかつた爲であるか（獨逸政府は七月廿九日夕決心したと考へらるゝ）、或は官憲が露、佛、白の社會黨に虛僞の安心を與る爲獨の社會黨を利用したのであるか、何れかを語るものゝ如く見ゆる。何れにしても獨逸社會黨の戰爭反對運動は其後消滅に歸したが、是れは決して不思議ではない。彼等は官憲によつて强壓されたのであるか、或は彼等は伯林の官吏が非常に大袈裟に吹聽したる露國鬼を怕れた爲であるか。後の方の假定は、露國に於ける交通機關が殆ど全く麻痺の有樣であることを觀察すれば、迚も信ぜられぬのである。然らば則ち獨の社會黨は、一九一二年以來彼等を征服したる帝國主義的衝動に動かされたものであらねばならぬ。其理由は何れに在つたにせよ、獨の社會黨議員は總て（縱し僅少の反對者はあつたにせよ）外交の初學者も尙且容易に攻擊的性質たることを看取し得る戰爭に對して、八月四日の軍事費に協贊したのである。其れにも拘はらず、ハーゼは戰爭の原因に就ては、最早言及しない、唯だ國境を防禦するに過ぎないと云ふ社會黨の宣言を朗讀したのであるが、此の拙劣極まる辯解によつて、ハーゼ及び其黨派は數年前に於ける彼等の數次の宣言の虛僞を證明したのである。ハーゼの行爲が一層卑劣であつたと云ふのは、彼は七月廿九日ブラッセルに於ける社會黨の大會席上セルヴィアに對する塊地利の要求は眞個の挑戰であると宣言し、尙若し露國が干涉するとしても、獨逸政府が之に干涉す可からざるものであると信ずる旨を主張したからである。此會議で、八月九日巴里に於て戰爭を防遏す可き一般方策を協議する爲、列國社會黨大會を開催することが議決せられたのである。此事實を知つたので、伯林政府は大急ぎで七月卅一日露佛に其最後通牒を發するに至つたのであるか。然らば明かに獨逸政府のあはてたる兆候は、何故百十人の社會黨議員の疑念を惹起さなかつたのであるか。何故八月四日の議事に際して、彼等は現に帝國宰相が不法行爲なりと認めたる白耳義の中立違反に對して、抗議を唱へなかつたのであるか。結局何故彼等は八九月の交白耳義に於ける獨軍の蠻行に對して抗議を唱へなかつたのであるか。

然り實際に於て、社會黨機關紙 Vorwärts は戰爭に對しても、獨逸軍隊の蠻行に對しても抗議を唱へた事は茲に述べて置かねばならぬ。リイブクネヒイ亦一九一四年十二月第二回軍事公債募集に反對して、獨逸は世界の市場を征服せむが爲、帝國主義の戰爭資本家の戰爭を行つて居ると宣言した。此時頃には既に總ての獨逸社會主義者は獨逸の戰備の完備して聯合側の不準備なることを知つて居たのである。然も尙十六人の社會黨代議士がリイブクネヒイの反對抗議に贊成したに過ぎなかつた。後漸次に彼の味方が增加して、結局獨逸社會黨の多數は、獨逸が戰勝の場合を假想して公々然領土合併政策を唱道しつゝある者を攻擊した。所が獨逸社會黨員中、佛白の同主義者に向て、兩國が今の中平和の條件を講究す可きであると慫慂する者があつた。Bremer Bürgerzeitung の主筆ベルンスタインは激烈に此忠告に反對して下の如く指摘したのである。佛蘭西は獨逸に攻擊せられ、現に其領土の一部は占領せられて居るから、佛が今平和の事を講究するは、非常な不運を招くであらう云々。ベルンスタイン、リイブクネヒト、カウツ

キー、ハーゼ等は領土併合並びに償金等なき平和を要求する社會黨の宣言書を發布した。所が彼等も彼等の宣言書も、政府の政策に贊同する他の多數社會黨の爲に排斥せられたのである。

下

佛國の社會黨は其首領ジョーレの暗殺せられた爲、一時意氣沮喪したけれど、彼等は忽ちジョーレが必然採つたであらうと思はるゝ地位を占め得た。佛國が挑發することなくして、獨逸の爲白耳義を通じて裏切的に攻擊せられたので、佛の社會黨員は擧黨一致母國の防禦に當つたのである。全然戰爭を不可能ならしむ可き「總同盟罷業」などを叫ぶ者、今日佛國には絕無である。獨逸の社會黨が萬國勞働者協會に叛逆した爲、今の處同協會の希望は實現せらる可き機會は見へず、白耳義、佛蘭西、セルヴィア、波蘭諸國に於ける同一主義者も、夫れ〳〵各自の國家に義務を盡す舊主義に依賴するの外はない。

一九一四年七八月に於ける大危機の一大敎訓はかうである、即ち世界主義は其信者が各國民の間に於て一致團結して始めて成功することが出來る、而かも一方面に於ける叛逆は有ゆる方面に於ける瓦解を導くものである。

ラティン人及びスラヴ人の天才は忽ち一九一四年八月の大危機に際し、彼等の多數が始終嘲弄して居た愛國主義が戰爭中採らる可き唯一活動の徑路である事又其侵擊者に對して母國の爲に戰ふ事こそ取りも直さず世界主義の理想を實行す可き第一歩である事の眞理を看破したのである。殊にグスターフ・ヘルヴェの行動は極めて注意す可きものであつた。彼は忽ち燃ゆるが如き愛國者となつた。獨逸に對して死ぬるまで戰ふチャンピオンとなつた。白國社會主義者デストレは激しく獨軍の狂暴を攻擊して、爲に伊太利をして其態度を決定せしめ、倨傲なる帝國主義に反對して國民の自由の味方に引入るゝに與つて功が多かつた。大英國に於ても亦、勞働者の行動は概して奉公義勇の精神を發揮したのであるが、不幸にも勞働黨の一派は此大戰亂に際して、一層大なる問題に着眼するの明を欠いで居た。之が爲英國には、佛蘭西が其全生命を高き目的に棒げたるが如き擧國一致を見ることが出來なかつた。佛國では物價の暴騰にも拘はらず、戰爭破裂以來一九一六年二月中旬迄に一回の同盟罷業さへなかつたに引きかへ、英國では一九一五年中だけで六百九十八回に上る同盟罷業が起つた。是等の同盟罷業中には、單に地方的理由や部分的原因に出でたものもあるけれど、多くは國家の爲非常に有害であつたのである。此の如き對照は英國の爲甚だ恥づ可きことで、一概に佛國は敵に侵入せられて居るけれど、英國は爾うでないからとのみ辯じ去る可きでない、と云ふのは、小弱國民の自由の爲に戰ふ戰爭の目的は何處に於ても同一であるからである。此視易き眞理を覺らざる英國勞働黨の一部は、世間の不信用を招かねばならぬ。かくて將來の世界的運動に於て牛耳を執る者は、恐らく歐洲諸國民の運命に關する此の未曾有の危機に際して、廣い寬大な經世家的見解をば殆ど一齊に取りたるラテイン民族か然らずむばスラヴ民族であらう。

露西亞では最初、社會黨の間に戰爭の問題に就て意見が別れた、是の如きは其政府の專制的性質に照らして無理もない事であつた。露國社會黨の領袖殊にクロポトキン公は忽ち獨逸の脅威の重大なることを看取し、軈て同黨は熱心に國家の爲に戰つたのである。一九一五年二月倫敦で開かれた、萬國社會黨大會 International Socialist Congress に於て露國代表者は總て、小弱國民の權利が回復せらるゝ迄、而して歐羅巴の平和を保護す可く聯邦制度が企畫せらるゝ迄、戰爭を續行する事に投票した。

以上は今次の大戰に際して、殆ど總ての社會主義者が目的としたる所である。所が獨逸では困難の漸く加はるに拘はらず、同國の社會黨は依然其の政府を支持して居る。一九一六年一月匆々帝國議會の討論に際して、リイブクネヒトの非戰爭論には四十一人の議員が味方したけれど、帝國宰相が何れの方面に於ても其占領地併合の意志あることを否認しなかつたが爲に、社會黨議員の多數がリイブクネヒトに赴くやうなことはなかつたのである。佛國社會黨の方では、アルサス・ロレーンの將來は兩地方に於ける人民投票に依て決せられむことを要求したのであるが、是要求は二州の將來は依然獨逸の政治と關聯す可きことを主張せる同國の社會黨に依て排斥せられた。波蘭問題と齊しく二州問題は世界主義の暗礁である。而して佛國及び露國の社會黨は世界主義の理想に向て戰ひつゝあるに反し、獨逸の社會黨は主として國民主義の見地に立ちて、フレデリッキ大王やウィリアム一世が或は略奪し或は征服した領土に固着して居ることは注意す可き點である。一九一六年一月獨逸社會黨領袖シャイデマンは演說して、强く平和を辯護し領土併合に反對したが、下の如き不幸なる語を漏らした。曰く「吾人は如何なる形式に於て企てらるゝを問はず、佛國にアルサス・ロレーンの併合せらるゝと云ふ意見には不贊成である」。

他の世界主義的運動に取ての打擊は、中立諸國が中立地の神聖並びに非戰鬪員に屬する權利を保障したる海牙平和會議の約束に對する義務をば全然遂行すること能はざる事である。弱小なる獨逸の隣邦は明かに獨逸に慴伏したけれども、然も北米合衆國の威力を以てすれば、白耳義や波蘭に行はれたる如き爾かく顯著なる蠻行の場合に際して抗議を唱ることが出來たのである。所がワシントンからは何等の抗議も唱へられなかつた。かく中立國が其義務を怠つたので、數回の海牙平和會議に於ける有ゆる努力は、少なくとも此戰爭中は無用に歸したのである。左すれば、此處にも世界主義的理想が非常に脆弱なものであることを經驗が證明したのである。殘忍な倨傲な國民主義と一寸接觸して、世界主義的理想は忽ち消滅した。此の如くして獨逸は世界をして、三十年役の狀態に比す可き無法なる野獸性の狀態に歸らしめたのである。

今やかう云ふ疑問が到る處發せられつゝある。國際法と道德とは、果して其信任を回復するに足るだけの方法に於て再興さるゝであらうかと。悲觀論者も皮肉家も齊しく之を否認して居る。然し、余は歷史的論據から此の如き悲觀說に贊成することが出來ない。と云ふのは、既に前上の研究に見はれたる如く、國民主義は未開國民の間に於ける外は、殆ど其力を披瀝し盡した徵候が見ゆるからである。今回の戰爭は即ち輓近に於ける狹隘なる固陋なる流の國民主義運動の失敗を證明したのである。或一國民が世界的覇權を揮はむが爲、揶揄にも弱小なる隣邦を壓倒せむと企てた其事が、殆ど總ての世界を擧げて一致して之に反對するに至らしめた。而して此企の失敗に伴ふ可き恐る可き國力の疲弊は來る可き數世紀間復び此の如き野心を企てむとする者に取て鑑戒となるであらう。既に述べたる如く、國際法の違反が一層殘虐不信義になればなるたけ、將來に對する適當の保障を以て此法律を再興せむとの要求が一層强くなるのである。政治や財政や法律や何れの範圍に於ても、亂暴なる行爲が每時强い反動を生むのである。其れで吾人は輓近に於ける露骨なる國民主義が其大立者を零落せしめたる曉、必然世界主義的理想に贊成する强大なる反動を生ず可きことを確信するのである。一八七一年巴里の暴徒は此種の理想に向て愚かなる戰を戰つたのである

が、一九一四年には伯林の變節漢等に依て世界主義の理想は無殘に裏切られたのである。吾人をして、將來世界主義的理想を實行するに方り、善意と的確なる判斷とが互に提携せむことを希望せしめよ。既に海牙仲裁裁判所では、武力に代ゆるに道理の勝利を確保す可き方法が出來て居る。若し今後總ての歐洲强國が協和の意志を以て征服の意志に代ゆることに同意するやうに進むだならば、世界主義の業務は半ば遂行されたのである。

何故新歐羅巴は各國の利害を協調することを好まぬであらうか。有ゆる重立つたる思想家は、現に國民的抱負の中でも比較的健全なる分（詳言すれば同一の感情を抱ける人々の政治的合同を奬勵するが如き）は、相當なる滿足を與へらる可きであることを認めて居る。白耳義は以前よりも一層の光榮を以て再興せらるゝであらう。佛蘭西はアルサス・ローレンを回復せねばならぬ。然し佛、白國民にして賢明ならば、決して萊因の國境を欲求せぬであらう。波蘭（一七七一年の波蘭）は假令露帝宗主權の下に立つにせよ、民政上の自由を獲て復活す可きである。伊太利亦トレンチノ及びトリエストに於ける同國人の回收を遂ぐ可きも、若し伊國にして賢明ならば、進むで東方のスロヴェン人やスラヴ人の領土を併合しないであらう。墺地利の問題や東方の問題は一層難題であるが、然し是等の問題も國民主義や權利の平等を基礎としたる聯邦制度に依て決定せらるゝであらう。マセドニアの紛糾も關係ある諸國民の喧囂なる代表者の手に於てせず、列强の任命したる委員に依て決定せられねばならぬ。アルバニア、勃牙利、コンスタンチノープルに關する諸問題に就ては、注意深き人は今に於て憶斷を下さないであらう。何となれば、是等の問題は主として時局の進捗に隨て決定せられねばならぬからである。此事だけは極めて確である。即ち現に爭はれつゝある問題の性質は極めて重大であるから、其解決をして徹底的ならしむ可く總ての英國人が最大の努力をせねばならぬ、決して生半可の和睦をしてはならぬ事である。五年戰爭しても未だ其れよりも優しである。

余が概說したる新歐羅巴は、未だ曾て有らざる極めて幸福なる歐羅巴であらねばならぬ。實際上始めて總ての大國民が平等の條件で聯盟するであらう。若し此健全なる聯盟に反對する王朝があれば、凡て滅亡す可きことは、推察することが出來る。其れで民政上の自由と國民的合同が遂げられたる後、反對するときには强いけれども、適當の滿足を受けては弱くなる國民的本能なるものは、四海同胞と云ふ遙かに廣大で併かも高尙なる感情の中に融和して了はれねばならぬ。國民的本能なるものは畢竟此目的を達せむが爲の豫備的階段に過ぎないのである。（完）

連續航海に關する英米の主張

泉　哲

一九一四年七月二十八日墺洪國の對塞比亞宣戰以來茲に歐洲大亂の勃發を來し一九一五、一六兩年を經過し本年に入りて尙其終局を豫測し難きの狀を呈せり。此の終局を豫測し能はざる戰亂中に於て最も重大なる問題を惹起せる一は實に糧食物資の供給問題となり。若し交戰國の一方が巧に敵國に輸入せらるゝ物資の供給を杜絕し得ば其の杜絕せられたる一方は頗る不利の地位に起ち早晩敗退の運命に到達すべきは唯だ時の問題と化し終るべく戰爭終局の豫測又困難にあらず。されば交戰國の雙方共に對手國の沿岸を封鎖し外海よりの交通を遮斷して物資の供